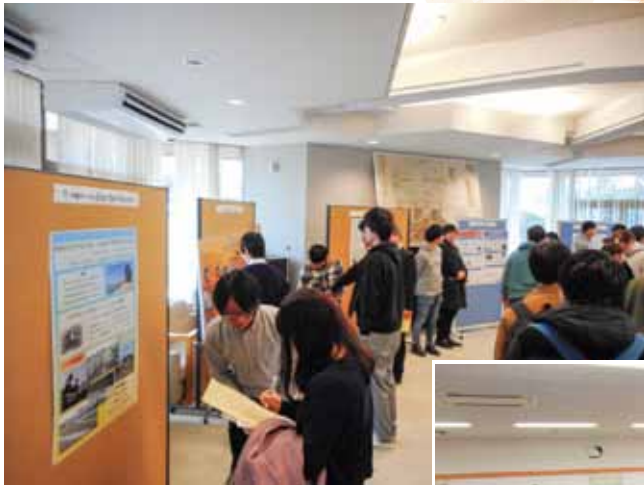


富山県立大学ニュース

令和2年3月発行
富山県立大学広報・情報委員会

No.126



地域協働授業成果発表会

高校生向け科学技術体験講座



CONTENTS

- 退職にあたり
- News Digest
- 1年を振り返って
- 学生レポート など



大谷米太郎記念基金事業による大学院就学奨学金支給決定通知式

退職にあたり



「退職にあたり」

電子・情報工学科 教授 松田 敏弘

平成11年（1999年）10月に、工学部電子情報工学科の助教授として本学に着任し、シリコンを中心とした半導体デバイス、集積回路に関する教育研究に携わってきました。大学卒業後、民間企業から富山県工業技術センター（当時）を経て大学教員となり、学生時代に見ていた大学という世界を、反対側から見ているような気持ちでした。研究室では、学部や大学院の学生の皆さんとともに研究に取り組み、毎年秋には2泊3日で近隣県へ出かけて、じっくり議論しながら親睦を深めたことが良い思い出です。昨年10月の研究室の同窓会には、多くの卒業生が集まってくれ、頼もしく成長した姿を見て、嬉しいかぎりでした。約20年間、若さあふれる学生の皆さんと楽しく過ごすことができました。これまで支えていただいた教職員と学生の皆さんに、心より感謝申し上げます。2学部体制になり新校舎も完成して、大きく変わりつつある富山県立大学が、今後もますます発展していくことを期待しております。

News Digest

大谷米太郎記念基金事業による大学院修学奨学金の支給について

大谷米太郎記念基金により平成27年度から実施している大学院修学奨学金について、去る2月3日に令和元年度支給決定通知式が行われ、5名の大学院生に、渋谷理事長から支給通知書が交付されました。

大谷米太郎記念基金は、本学の前身の県立大谷技術短期大学の開学に多大な貢献をされ、郷土愛の厚かった本県出身の実業家の大谷米太郎翁が出捐・設立された財団の残余資産をもととした基金です。翁（故人）やご子孫の願いを踏まえ、優秀な人材を育成するための学生支援事業として、本学を優秀な成績で卒業し、本学大学院博士前期課程に進学した1年次生を対象に、年間授業料の半額に相当する奨学金を支給しています。

今回、奨学金を受けられた皆さんには、学生の模範として一層勉学に励まれ、将来、優秀な研究者や技術者として活躍されることを期待します。

本学も、学生の皆さんの励みとなるよう、今後とも本事業による支援を続けてまいります。



高校生向け科学技術体験講座

本学では、県内の高校と連携し、高校生向け科学技術体験講座を実施しました。

今年度は、8/6(火)の大門高校に続き、12/11(水)に富山東高校自然科学コースの1年生40名が、本学教員による講座を受講しました。

日頃触れることのない、大学での専門的な講義や実験を体験することで、科学・技術への関心を高めるとともに、ひいては本学の研究や教員をはじめ、ドンドンマスマス成長する本学の魅力も感じてもらえたのではないのでしょうか。





情報セキュリティ研修会

12月9日(月)に富山キャンパス、12月11日(水)に射水キャンパスで、「情報セキュリティ研修会」を開催しました。本研修会はセキュリティ意識の向上を図り、学内セキュリティ対策を徹底するため、全教職員を対象として実施しました。

今年度は教員による学内セキュリティに関する講義のほか、富山県警察本部より講師をお招きし、「サイバー犯罪の現状と対策」というテーマで講演を行って頂きました。研修会を通して様々な質問や意見があり、情報セキュリティについて改めて考え、重要性を再確認する良い機会となりました。

大学院生向け業界研究会

大学院生に対する県内企業の認知を高めることを目的に、2019年12月19日(木)、本学射水キャンパス食堂にて、「大学院生向け業界研究会」を開催しました。本学卒業生が在籍している県内企業20社を招聘し、各ブースでの企業説明の後、立食形式の懇談会を行いました。40名の学生が参加し、2020年3月から本格化する就職活動を前に、企業や業界について学びました。懇談会では卒業生と学生が交流を深め、学生は、企業の選び方や実際の仕事内容、エントリーシートの書き方や面接対策について、卒業生からのアドバイスに熱心に聞き入っていました。



中国瀋陽化工大学訪問団が富山県立大学へ来学

令和元年12月26日(木)、本学と学術交流協定を結んでいる瀋陽化工大学から、孫 亜光 大学学科発展企画処長をはじめとする3名が本学を訪問しました。

下山学長を表敬訪問したほか、関係者と実務者協議を行い、本学に在学している瀋陽化工大学出身の留学生と交流しました。

本学と瀋陽化工大学は平成23年度から学生の交換留学を行っており、今年で10年目を迎えました。瀋陽化工大学からこれまでに延べ31名の学生を受入れ、本学からも66名の学生を派遣してきました。

両大学の交流がますます深まることを願います。

第1回・第2回看護学部FD研修会

第1回は2019年8月19日(月)、第2回は12月20日(金)にFD研修会を開催しました。FDとは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組みのことです。

第1回は、看護学部の重点科目である「ユマニチュアのケア技法」について、認定インストラクターの資格を持つ教員が中心となり、9月に開講する授業内容に沿って、教員相互にケアをする側・受ける側を経験しながら技術を高めました。

第2回は、愛媛大学の教育・学生支援機構 教育企画室講師の仲道雅輝先生をお迎えしました。「大学における評価の特徴、授業設計の考え方、教育評価」などのご講演の後、5～6人のグループに分かれ、ルーブリック評価表の作成に取り組みました。



佐伯和子客員教授 特別講義「人生100年時代の看護学教育」

1月23日(木)に富山キャンパスにて、日本の公衆衛生看護学の第一人者であり、保健師教育等において顕著な業績がある本学客員教授の佐伯和子先生による特別講義が開催され、看護学部1年生と教員、医療従事者ら約220名が参加しました。

講義では、社会環境の変化や科学技術の進展による看護師の仕事内容の変化はあるものの、看護に一番重要なのは機械にない人の温かさであり、今後も看護の発展と拡大は続いていくと説明されました。また、看護師が様々なことに挑戦し、柔軟に学び続けていく重要性についても言及され、学生等は心に深く感じました。

令和元年度ダイバーシティ講演会 (SD研修会)

12月27日(金)に、全教職員を対象とした講演会を開催し、東京農工大学副学長宮浦千里氏に「東京農工大学におけるダイバーシティ環境実現への取組」と題してご講演いただきました。

講演では女性活躍推進のための環境整備について、先進的な取組を具体的にご紹介いただき、また講演後の質疑応答でも本学教員と熱心に意見交換を行っていただきました。

本学では看護学部の新設により、女性研究者や女子学生が増加しています。今後更に女性が活躍できるよう、女性研究者の支援や働きやすい職場環境の整備に取り組んでまいります。





とやま未来創造青年プロジェクトチームへの参加について

令和2年1月14日(火)、富山県民会館で開催された第3回とやま未来創造青年プロジェクトチームの会合に本学から生物工学専攻の谷 美沙季さんが参加しました。

全3回の会合の最終日となった今回は、石井隆一富山県知事の前でそれぞれのチームから政策の提言が行われました。谷さんの参加されたグループでは富山県地方創生「暮らしたくなるまち」をテーマに、具体的な事例を交えたプレゼンテーションとなりました。その中で谷さんは実際に富山県内でインターンに参加した際の体験などについて発表を行いました。

令和元年度後期 地域協働授業成果発表会

本学では、学生が地域関係者と直接対話や交流を行いながら地域が抱える課題について考え、課題解決をサポートする「地域協働授業」を実施しています。その成果や学生団体の自主的な地域協働について広く知っていただくため、1月30日(木)、31日(金)の2日間にわたり、「地域協働授業成果発表会」を開催しました。SDGsをテーマとした自治体との協働など、計22グループが各々の取組みをポスターセッション形式で発表し、約250名が参加しました。学生と参加者との間で活発な意見交換や質疑応答が交わされ、活気あふれる発表会となりました。



1年を振り返って



新棟の供用開始

工学部長 中島 範行

本学の学科拡充による学生数の増加等に対応するため、射水キャンパス中央部に進められていた新校舎（名称：中央棟）が、2020年4月からいよいよ供用開始となります。鉄筋コンクリート9階建てで、高さは約42mあり、6階までの大きな吹抜け空間を有し、富山県特産のアルミ技術を活かした地域のランドマークとなるシンボリックな外観が特徴的なシックな免震構造を有する校舎です。

南側は2階まで低層、東側は「コの字型」に分節された段状の構成で、既存棟、図書館及び学生会館とは渡り廊下でつながっています。中央棟1階には、大講義室、アクティブラーニング、ラーニングコモンズ、オープンラボ、実験室が、2階には13室の講義室が設置され、産学官が一体となって利用しやすい空間となる様、配慮されています。3階以上は専門性の高い研究・実験室ゾーンとなり、教養教育センター、機械システム、知能ロボット、情報システム、環境・社会基盤工学、医薬品工学等の学科が入居し、9階には会議室が設置されています。

我々教職員は、建設の様子を始めからずっと見守ってきました。これからの引っ越しは大仕事ですが、校舎の完成によって、キャンパスが一体となって交流が増々盛んになり、快適な教育・研究環境が創出できることを期待しています。

なお、2018年1月から2019年12月まで、本部棟6階に定点カメラを設置し撮影してきた建設風景動画（タイムラプス動画）をHPで公開中です。ぜひご覧ください。



看護学部スタートの1年

看護学部長 竹内 登美子

医療・看護ニーズの高度化・多様化に対応する看護人材育成のために開設した看護学部は、工学部との2学部体制となったことから、看護学と工学の連携を強みとした教育と研究に力を注ぎました。そのための環境整備、例えば2学部間を往復するスクールバスの増便や、看護技術を映像や数値で可視化して学ぶための機器の購入等、看護学部に対する皆様の温かいお心遣いはとても有難く、心から感謝を申し上げます。

この1年間で学生が高い関心を示した科目の一つに、包括的コミュニケーション技法を学修する『看護ケアとユマニチュード』があります。ケア技法のみならず、その基盤にある“人間の尊厳とは”“自由とは”等を深く考えさせられる哲学にも、大きな影響を受けたようです。「ユマニチュードの授業を受け、この大学に入ってよかった」という学生の声もありました。

キャリア形成科目の『トピックゼミ』では、少人数教育によって物事を多様な観点から考察する力や、主体性を培う教育を展開しています。担任制をとらないで、ゼミの教員が学生のメンターを兼ねるという体制をとっており、ゼミ学生と教員との日常的な関りによってお互いの関係性が深まり、学修効果が高まってきているように思えます。

1期生の本格的な看護学の学修は、これからです。成長し続ける看護学部を、引き続きよろしくお願いたします。

学生 レポート

「ドイツ留学を通して」

博士前期課程生物工学専攻1年 河野友里



私は、2019年8月から11月までの約3か月間、ドイツのビーレフェルト大学化学部ハラルド・グレーガー教授の研究室に留学させていただきました。

ドイツでは、フローケミストリー（連続的な化学合成）について学び、さらに酵素を組み込んで反応効率を向上させる目的で実験を行いました。このような研究を通して、新しいことをたくさん学べたと同時に、現在日本の研究室で学んでいる、基礎的なタンパク質工学の重要性にも改めて気づくことができました。

そして、現地での研究室生活の中で、効率的な働き方、目標に向かって進んでいく実行力、合理的な思考など、限られた時間の中で結果を出していく、現地の学生の研究に対する姿勢を身近に見ることができました。

さらに、親切でフレンドリーな現地の方々や、大学内や街中で話しかけてくださり、たくさん助けていただきました。そのような現地での生活の中で、異言語や異文化を身近に感じ、多様な考え方や生き方に触れることができ、とても勉強になりました。

今回の留学を通して、新たな知識や技術を身に着けることができただけでなく、バックグラウンドの異なる方々と交流することができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

最後に、ドイツに留学するにあたってご指導いただいた日独の関係者の皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

学生 レポート

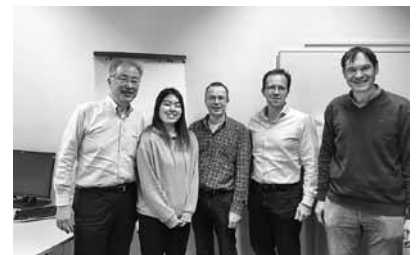
「ドイツ留学」

博士前期課程生物工学専攻1年 田伏志帆

私は、令和1年8月から12月にかけて、ドイツのビーレフェルト大学の細胞培養を専門とするThomas Noll教授の研究室に4か月間留学させていただきました。Thomas Noll教授の研究室のHeino Büntemeyer先生のご指導の下、細胞が産生する抗体の糖鎖構造について様々な分析機器を用いて解析する研究を行いました。

このお話をいただいた時は所属している研究室にとっても初めての分野で、さらに4か月間ということでは不安ばかり感じ、留学を中々決意することができませんでした。しかし、新しいことを学べる減多にない機会だと思い、留学を決断しました。留学前には、細胞培養について医薬品工学科の先生方にご指導いただき、基礎的な知識を習得しました。渡独後は、まず、ビーレフェルト大学の学生実習に参加して細胞培養の練習をした後、前述の研究をしました。不慣れな研究分野で、ドイツ語での実習など不安や苦勞を感じることも多くありました。しかし、周りの方々にたくさん助けていただき、限られた期間で成果を出すことができました。今回、研究に関する知識だけでなく、未知の世界に挑戦する大変さ、楽しさも学ぶことができました。

最後にこのドイツ留学の機会を与えてくださった関係書の方々はこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



本学教員等の受賞等について（※学科名、職位は受賞当時のもの）

受賞者	表彰の名称	表彰内容（論文名等）	受賞日
小柳 健一 教授 (工学部知能ロボット工 学科)	SI部門賞部門貢献表彰	SICEに関連する会議(第24回ロボティクスシンポジ ア)への貢献(実行委員長)	2019年12月13日

本学学生等の受賞等について（※学科名、学年は受賞当時のもの）

受賞者	学科等	学会賞名	受賞年月	指導教員
長野 孝亮	電子・情報工学科 4年	令和元年度生体医工学会北陸支部大会 研究敢闘賞	2019年12月	教授 唐山 英明
大井 純也	博士前期課程機械システム工学専攻 2年 (平成30年度卒業生)	20th Electronics Packaging Technology Conference 2018 (IEEE Singapore Chapter) Best Student Paper Award	2019年12月	教授 森 孝男
山岸 大起	電子・情報工学科 4年	電子情報通信学会北陸支部学生優秀発表賞 (2019年電気・情報関係学会北陸支部連合大会)	2020年1月	講師 小林 香
中根 和城	博士前期課程知能デザイン工学専攻 1年	HSS Design Award 特別賞	2020年1月	准教授 増田 寛之
伊藤 大世 森崎 稜磨	博士前期課程機械システム工学専攻 2年 機械システム工学科 4年	いみず学生アイデアコンテスト 特別賞	2020年1月	講師 寺島 修
内藤 匠海 西川 礼恩	機械システム工学科 4年	いみず学生アイデアコンテスト 優秀賞	2020年1月	講師 寺島 修
小野 竜輝 中村 優太 宮口 知也	環境・社会基盤工学科 3年	いみず学生アイデアコンテスト 優秀賞	2020年1月	准教授 星川 圭介

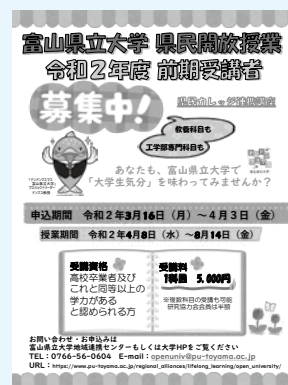
INFORMATION

富山県立大学県民開放授業(オープン・ユニバーシティ)

～令和2年度前期受講生募集～

本学では、地域の方々に正規の授業を公開する県民開放授業（オープン・ユニバーシティ）を実施しています。簡単な手続きとリーズナブルな受講料で、教養教育科目や専門科目など約100科目のバラエティに富んだ授業を学生と一緒に受講いただけます。

- ◆ 募集期間 ◆ 令和2年3月16日(月)～4月3日(金)
- ◆ 授業期間 ◆ 令和2年4月8日(水)～8月14日(金)
- ◆ 公開科目 ◆ 約100科目
一般教養科目…社会学Ⅰ、心理学Ⅰ、数学Ⅰなど
工学部専門科目…機械力学、ロボット工学基礎、バイオ医薬工学など
- ◆ 受講料 ◆ 1科目5,000円（複数科目の受講可能）
※研究協力会員は半額助成となります。
- ◆ お申込み・お問い合わせ先 ◆ 詳しくは下記大学HPをご確認ください。
富山県立大学地域連携センター（受講生窓口）
〒939-0398 富山県射水市黒河5180
TEL:0766-56-0604/FAX:0766-56-0391/E-mail:openuniv@pu-toyama.ac.jp
URL: <http://www.pu-toyama.ac.jp/local/shougai/>



学位記授与式

令和元年度の学位記授与式をアイザック小杉文化ホールラポールにて執り行います。
また、授与式後、本学大谷講堂にて後援会及び卒業生一同による「卒業記念・謝恩パーティー」を行います。

【授与式】

- ◆ 日時：令和2年3月20日(金・祝) 午前10時～
- ◆ 会場：アイザック小杉文化ホール ラポール（射水市戸破1500番地）

【卒業記念・謝恩パーティー】

- ◆ 日時：令和2年3月20日(金・祝) 午後0時45分(予定)～
- ◆ 会場：本学大谷講堂

「公立大学法人富山県立大学安否確認システム(ANPIC)」の導入

●安否確認システム(ANPIC)について

近年、日本各地で地震をはじめとする自然災害が多発する背景を受け、本学では、大規模災害等の危機発生時や新型インフルエンザ等のパンデミック発生時に、学生の皆さんの安否確認を迅速かつ確実に実施するため、「公立大学法人富山県立大学安否確認システム(ANPIC)」を導入し、令和2年1月から運用を開始しています。

ANPICは、気象庁が提供する地震情報を自動取得しており、富山県で「震度6弱」以上の地震が発生したときは、あらかじめ学生の皆さんに登録していただいているメールアドレスやスマートフォンアプリ又はLINE宛てにANPICから安否確認メールが自動送信され、安否確認メールを受信した学生は、安否状況を報告することになっています。

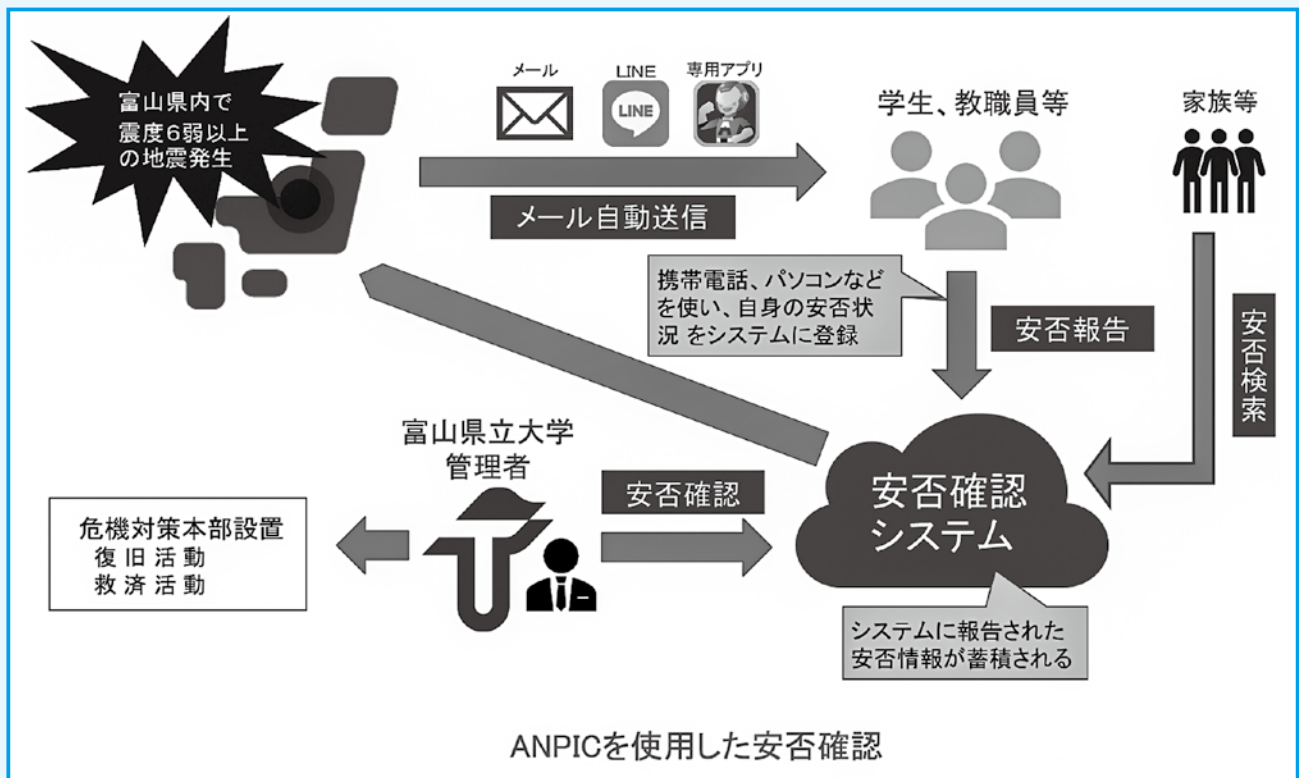
上記以外の災害発生時等においては、発生した災害による影響を鑑み、必要に応じて大学の管理者が手動でメール配信を行います。また、本システムを活用して、安否確認とは関係なく、学生の皆さんに向けた一斉メール送信やアンケート調査等を行う場合もあります。

●安否検索

ANPICは、ご家族が、本学の学生の安否情報を検索して、確認をすることができます。

電話でのお問い合わせには、時間がかかる場合がありますので、ご家族の方は、できるだけ【ANPICログインサイト】のURL※にアクセスして、安否検索をご利用くださいますようお願いいたします。なお、安否情報は、外部に非公開が原則で、平常時は非公開に設定しています。大規模災害時には、ご家族からの学生及び教職員の安否の問い合わせにかかる照会の時間を短縮するため、ご家族が学生及び教職員の安否を確認できるように一時的に公開します

※本学のホームページの安否確認システムのサイトに掲載しています。



●事前の登録

安否確認メールを受信するために、学生の皆さんは、事前にANPICに携帯メールアドレスの登録やアプリの登録(LINE設定)を行う必要があります。

大規模災害発生時には、家族などへの連絡がとりにくくなることが想定されます。そうした場合の連絡方法として、複数の「災害用伝言サービス」も提供されていますが、あらかじめ、学生とご家族で連絡方法を確認しておくことが、災害に備えた日頃の準備として大切です。

ご家族が、学生の安否を確認する方法の一つとして、ANPICを活用していただくためにも、学生が、ANPICに登録していない場合には、是非ご家族からも、登録を済ませるようお声がけをしていただけるよう、よろしくお願いいたします。

SCHEDULE 令和元年度

	射水キャンパス	富山キャンパス
3月	7(土) 一般入試(前期日程) 合格発表	2(月) 大学院工学研究科入試
	12(木) 一般入試(後期日程)	
	20(金) 学位記授与式	
	24(火) 一般入試(後期日程) 合格発表	
4月	6(月) 入学式	3(金)~7(火) オリエンテーション 学生定期健康診断
		8(水) 前期授業開始
		21(火) 学生定期健康診断
5月	21(木) 研究協力会総会	
	29(金) 学生球技大会	

CAMPUS NOTE

TCC (テクニカルコンピュータクラブ)



みなさんこんにちは、TCC (テクニカルコンピュータクラブ) です！私たちは、プログラム、Web、2Dイラスト、3Dモデル、音楽、動画の6つの班で構成され、パソコン上での「モノづくり」を通して活動をしています。

主な活動として、勉強会を毎週行っています。また、学校イベントにも積極的に参加しており、ダ・ヴィンチ祭での子供たち向けの科学シミュレータの制作、展示や、県大祭ではプログラミングコンテストの開催や屋台の出店をしています。

過去には東京ゲームショウにて表彰を受けたこともあり、自分の好きな「モノ」を通して面白い「コト」ができるのがTCCの魅力です。

また、OBにお願いして勉強会を開いて色々なお話や技術を知ることができるのもよさです。

意外にも、多くの方は全く知識がない状態から始めてそこから技術を伸ばしているのでもう少し興味を持たれた方はぜひ部室に立ち寄ってみてください。いつでも待っています！！

(Twitter : @tcc_tpu)
(電子・情報工学科2年 坂東 裕太)

編集後記

富山県立大学ニュース

来年度、本学は開学30周年を迎えます。富山県立大学ニュースも開学直後の平成2年7月に創刊号を出してから現在まで126号を数えます。さて、私の手元に創刊号の編集後記がありますのでご紹介します。執筆は当時の学生部長、筧田知義先生です。

『◎創刊号を出せた。これは大学の現在を十分に理解してもらうためのものである。また、時がたてば大学の歴史となるものである。◎もう少し多様な記事があってもいい、という意見があった。それは第2号からと思っている。表題を現代の若者向けにしたい、県立大学を象徴するものとしたら、などの意見があった。学生諸君にも聞いてみたが、ぴったりするものがなかった。それで一般的でわかりやすいもので出発することになった。よいアイデアがあればお聞かせいただきたい。◎新設大学であり、いろいろの出来事があった多忙な1学期だった。ともかく、学生諸君によく読んでほしいと思っている。題字は学長藤井澄二先生にお願いした。』

淡々とした文章ですが、立派な大学を作りたい、という創設時の先生方の熱い想いが伝わってきます。私たちも後に続く人たちへ、よりよい大学を残すよう頑張らないといけないと思いました。

4月には新棟も完成し、富山県立大学の新たな歴史が始まります。それにあわせて次号より富山県立大学ニュースもリニューアル致します。皆様方におかれましては、引き続き富山県立大学ニュースをご愛読いただけますようよろしくお願い致します。

(広報・情報委員長 福原 忠)



この用紙は資源保護のため、インキは植物油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。